

フロアゴルフ

教科・場面

体育

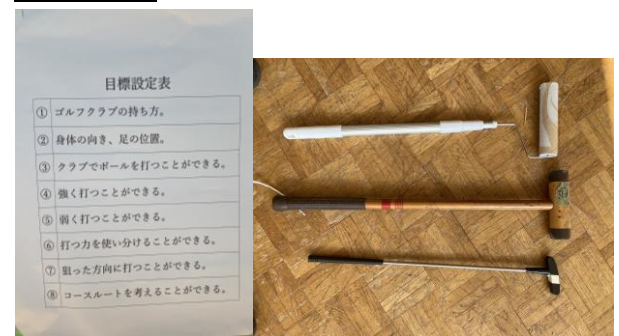
授業・実践のねらい

- ・競技のルールを理解し、積極的に取り組むことができる。
- ・生徒が主体的に考え、競技における最善の判断ができるようになる。

対象の児童・生徒

高等部Cグループは、3 学年混合のグループで構成されている。2 名が電動車椅子を使用、1 名がPCW使用、6 名が独歩である。認知面においては、興味の対象や集中の持続は個人差が大きく、個人の状況に応じた支援をすることで積極的に課題に取り組む姿勢を見せる生徒が多い。一方、自尊感情や自己有用感が低い生徒や、経験の乏しさから「できない」という言葉を発する生徒もいるため、多くの成功体験を積ませることがより重要になってくる。身体面においては、筋緊張により意思通りに身体をコントロールできない生徒、関節の可動域が狭く、自ら身体を動かすことが困難な生徒もいる。

教材・教具



工夫したところ

- ・目標の提示
- ・多様なゴルフクラブ

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

『フロアゴルフ』では、生徒が用具を適切に扱ったり、操作したりしながら、簡易化されたルールに則って運動に取り組むことや力の調整やコースルートの判断など主体的に考え、取り組む態度を育てることをねらいとしている。そのために、球やクラブ等の道具に慣れることから始め、実際に取り組みながら生徒が段階的にルールに対する理解を深めたり、技術を高めたりすることができるようにする。ルールの理解を深めるために、例示が必要となる際には、教員が模範演技しながら説明をし、理解を深めていくようにする。また、生徒には自分の課題を見つけ、自分の技能向上に取り組むだけでなく、友だちの意見を聞き工夫したりするなど友だちと協働し成功体験を増やすことで自尊感情や自己有用感を育てていくことも目的としている。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

・1プレイごとに考える時間があるのでルールの理解やコースでの最善の判断ができる場面が多くあった。目標を視覚化したことで自分の課題を意識してプレイし、振り返りでも自分の目標と照らし合わせて考えられる場面があった。また、友だちのプレイも注視して良いプレイがあると拍手などが出ることもあった。